



勉強に励む塚原さん(左)と千葉さん

松本秀峰中等教育学校(松本市埋橋2)4年生(高校1年生相当)の塚原凛太郎さん(16)と千葉快智さん(15)は13、14日に兵庫県淡路市で開かれる「全日本高校模擬国連大会」に出場する。(坪田達彦)

模擬国連は、自分の国と関係なく割り振られた担当国の外交官になりきり、決議案をまとめるための交渉力を2人1組で競う。全国から216チームの応募があり、2人は書類選考を通過した60チームに入った。

15回目となる今大会の議題は「核軍縮」。2人は10月初旬から担当国の現状や取り組み、隣国との関係などをインターネットや資料などで情報収集。本番では塚原さんが「内政」、千葉さんが「外政」を担い、意見や提案は英語で交渉は日本語で話す。

全日本高校模擬国連へ

13、14日 兵庫県で大会開催

塚原さんは「情報量が多く、調べ上げたことを自分の中で理解した上でや」と話せる。この過程で情報収集や処理能力が上がり、自分の成長にもつながっている。千葉さんは「他のチームと対等に議論できるよう知識を深めた。精神面も強くなったと思う」と話している。同校からは3回目の出場。

同大会で最優秀大使賞・優秀大使賞を受賞したチームは、来年3〜4月に米ニューヨークで開かれる高校模擬国連国際大会に派遣される。

大会に向け準備を進める千葉君(左)と塚原君



秀峰の塚原君、千葉君

模擬国連大会出場へ準備

松本秀峰中等教育学校(松本市埋橋2)4年生の塚原凛太郎君(16)と千葉快智君(15)が、13、14日に兵庫県淡路市で開かれる「全日本高校模擬国連大会」に出場する。本物の国連の会議のように、全国各地の高校1、2年生に当たる生徒が世界各国の大使役となって国際問題などを議論し合う大会だ。本書に向けて熱心に準備を進めている。(大高崎慧)

リポート形式の書類選考にわたり議論を深め、各チームが通過した2人1組のチームの主張をすり合わせた60チームが臨む。今年の設けた決議案の作成・採択議題は「核軍縮・核不拡散」を目標とする。会議は英語で「散」で、参加チームはそれぞれ割り当てられた国について事前に調べ、国連大会にチームを組む状況に照らし合わせたで初挑戦し、一連の流れ主張を展開する。2日間の中で討議する魅力や案

しさを感したという。さまざまな資料を読み込んで情報収集し、見識を深めて考えをまとめるなど入念な準備が欠かせない。塚原君は「準備にゴールはない。深められるところまで深め、本書に臨みたい」と力を込める。千葉君は「周りはレベルの高いチームばかりのはず。気後れせず挑み、自分の糧にできる大会にしたい」と意気込んでいる。

優秀な成績を収めた複数のチームは、来春に米ニューヨークで開かれる世界大会に進む。